

第161回 令和8年1月23日（金）

「リーダーの視点について。」

現在日本の首相は歴史上はじめて女性が担っており、非常に高い支持率となっています。（12月時点で70%強でした。）近年首相の支持率は着任当初で5割程度、半年ほどで4割を切ってしまうことが続いていたので国民の人気の高いと言えます。

それでも70%ということは3割の人は反対していることになります。

90%を超える支持を集めるということがとても危険であることを歴史は教えてくれます。第2次大戦におけるドイツのナチス党が現れた時、賠償金で壊滅的だったドイツの国民の熱狂的支持を獲得しました。その結果ホロコーストがおきても反対できる体制がなくなっていました。

日本も同じです。大政翼賛会が翼賛選挙を実施し、反対勢力を排除しました。治安維持法で国体（天皇制中心の日本の政治体制など、日本の国の体制）を批判することができなくなり、最高刑は死刑となりました。

小さな組織でも同じことです。リーダーの支持があまりにも高すぎると組織は自浄作用を失っていきます。反対勢力に対して力で発言を抑止する行動や、世論が言論封鎖をする風潮に陥ってしまいます。

どのような組織でも同じなのですが、20人いれば熱烈な支持者が8人、猛烈な反対者が3人、残り9人は無関心もしくはどちらでもない人、このような傾向になると言われています。

リーダーのやるべきことは9人を自分の味方にするものではありません。そうすると3人が排除された不健康な組織になってしまいます。ポイントは9人に関心を持ってもらうこと。リーダーの打ち出す施策に9人が是々非々で賛否を表明すれば、建設的な議論ができますし、リーダーは自分の意見の正当性を確認するバロメーターになります。

支持者の8人と閉鎖的に政策を進めるのも違いますし、反対する3人にばかり気を取られるのもダメだと思います。また中間の9人の動向ばかりに気を取られると単なる「票集め」に終始してしまいます。

リーダーは方針をしっかり説明し、賛否の状況を見極めて状況によって推進、修正、撤回を判断していくことが大切です。

反対者の意見は耳に刺さります。そこへのアプローチをしたくなるかもしれませんが、リーダーというのは万人から好かれるものではないし、それではいけないと考えています。

支持率に一喜一憂せず、どうしたら政策の理解が得られるのか、説明するプランを練っていくことこそリーダーの大事な仕事ではないかと思っています。